

同教科合同研修1年次のまとめ（アンケート調査より）

附属坂出小中学校

1 小学校教員が中学校の授業・討議に参加して学んだこと

<ア 学習内容・指導のつながり（系統性）>

- ・小中の指導事項のつながりを見ることができた。小学校で授業づくりを行う際に、中学校での姿を意識することにつながった。また、小学校段階で学ばせておかなければならないことがわかった。
- ・中学校の歴史では、小学校で得たイメージを基に歴史を通史的に学習し、さらに現代に引き付けて学ぶことで、歴史を主体的に学ぶことができると感じた。
- ・互いに学習指導要領に基づいて教材研究を充実させることが連携につながる。
- ・中学校の学習指導要領を読む機会になった。

<イ 小中共通した教科指導の重要事項（対話）>

- ・子供の姿として、中学校の授業でも自分の考えを説明すること、友達の考えを聴くことのおもしろさや価値等を感じさせることが重要だと感じた。（共通の重要事項）
- ・目的をもった対話の重要性
- ・小学校から対話のよさを実感させる学習を作っていけば中学校につながる。

<ウ 成長の様子>

- ・卒業後の子供たちの様子がよくわかった。

<エ 討議のしかた（教科の専門性）>

- ・専門的な大学の先生とOBを指導者に招いていることは、教科の本質を大切にしたい学習指導に役立つ。小学校でももう少し取り入れてもよい。
- ・小中双方の授業分析の仕方で意見をもらえるがよい。深い教材研究につながる。
- ・始めと終わりを子供の姿で示し、変容を見取っていかうとしているところ。
- ・教科の本質にかかわる意見が多いので勉強になった。

2 中学校教員が小学校の授業・討議に参加して学んだこと

<ア 学習内容・指導のつながり（系統性）>

- ・系統性が強い教科（数学）なので、小学校からの探究サイクルの繰り返しが大切だと感じた。一層、小中連携を深めたい。

<イ 子供の学習状況の把握>

- ・小学校段階での子供の学習状況の把握や小教員との情報交換（子供理解）
- ・小学校でここまでできるのならば、中学校ではと考えさせられた。

<ウ 指導技術やしかけ（わかりやすさ、発達支援）>

- ・問いの引き出し方，単元や授業構成
- ・きめ細やかな指導
- ・視点を端的に示した板書，掲示物，学習の流れがわかる工夫など，ユニバーサルデザイン

ザインの視点が参考になった。

<エ 個の見とりと討議（様相と代案）>

- ・個の見とりとその様相に基づいた討議
- ・経験年数に関係なく活発。代案を述べている。若い先生の意見が刺激になった。

3 小中の同教科で取り組んだらよいこと等のアイデア

<目標の共有化>

- ・教科で身につけてほしい力、目指す生徒の姿といったゴールイメージの共有。

<授業参観・討議のさらなる有効活用>

- ・教科合同の指導案検討・授業討議（同教科寄り合い時間の確保）
- ・お互いの授業や研究会に参加し、そこでの気づきや感想を伝え合う。
- ・授業づくり、指導案検討から、小中で意見交換をする。年に1本くらい。
- ・全体討議が終わった後、教科で話す時間が少しあればよい。

<コラボ授業>

- ・英語で小中合同授業を実施した。思った以上に双方に効果があった。中学生は刺激がもらえる。中教員にもやがて入学してくる子供のことが分かってよかった。
- ・小学校の教員が中学校で授業を行う。また、中学校の教員が小学校で授業を行う取組。
- ・小中の子供が同じ授業を受ける。中学生が小学生を教えたりアドバイスを与えたりする。
- ・時間割のやりくりで、互いにT2，ゲストティーチャーで入り，コラボ授業を考えてもおもしろい。特に，図工では美術と段差があるので，中学校の先生にゲストで来てもらい実演など専門性を活かしてもらいたい。

<その他>

- ・互いの開発物（指導案，教材等）を共有できるサーバー
- ・カリキュラム全体となれば負担が大きいですが，ピンポイントで，小学校の〇〇と中学校の△△の接続と絞れば，系統性を意識した指導ができるのでは。
- ・小6の家庭科のノートを中に持ち上がり，授業で活用する。
- ・合同運動会もあるので，9年間を通したカリキュラムを考える。

3 その他、働き方改革が進む中、効果的合理的に小中の合同研修を進めるアイデア等がありましたら記述ください。

<ICTの活用>

- ・事前に指導案と本取組をめぐって情報交換したい点をメールで送っておく。
- ・対面の寄り合いとメール，ライン，チャットなどの活用による，チーム単位の気軽な対話。日常からの関係性。

<モチベーションの維持と少人数を利用した親和的な会議方式>

- ・何のためにをはっきりさせると，自主的活動につながりやすい。

- ・何かの行事の後など，ついでの時間帯の活用
- ・研究授業以外でも，日常の授業もチームで調整して参観できるようにする。

<年間計画に位置づける>

- ・定期的な合同研究集会を位置づける
- ・小中それぞれの研究会の時の指導者を同じ人に頼み，系統立てた指導をもらう。
- ・互いの研究会の時の協力体制により，理解を深め合う。